

令和2年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第2回

令和3年2月16日（火） 午後5時15分～ Zoomにて

『研究的実践に学ぶ』

提案者：濱中 利矩先生（城南小）

城南小学校 濱中 利矩先生 3年「あまりのあるわり算」の実践

主題「問題解決の過程を大切にし、見方・考え方を働かせて考えることができる児童の育成
～3年あまりのあるわり算の実践から～」

既習事項を利用し、テストで問題を解くだけではなく、なぜそうなるのか問題場面を正しく把握し、見通しをもって数学的な見方・考え方を深めていってほしいという濱中先生の願いから本実践は行われました。あまりのあるわり算に対し、あまりをそのままにするのか、切り上げるのか、切り捨てるのか、問題文からの確に判断する児童の姿が見受けられました。

具体的な手立てとして、

- ・導入の場において、児童の日常生活にかかわりのある教材を取り上げる
- ・既習内容とつなげたり、問題解決の見通しをもたせたりするなど、発問や問題提示の仕方を工夫する
- ・結果を得た後に考え方の相違点を考えさせ、話し合いの焦点をしぼる
- ・振り返りの場面を工夫する
- ・板書を工夫し、児童の思考過程を視覚化する



の5点を挙げ、児童の変容を追っていました。

切り上げの場合は、『+1の問題』、切り捨てるの問題は『+0の問題』と名前を付けて問題を分類したり、前半は同じ問題であるが、後半は3種類のパターンで考えなければならない問題を作成したりするなど、濱中先生の授業の工夫について学ぶことができました。

参加してくださった先生からは、「商とあまりの単位の違いについて児童にどのように説明したのか」という質問があり、濱中先生からは商とあまりが、図のどこ

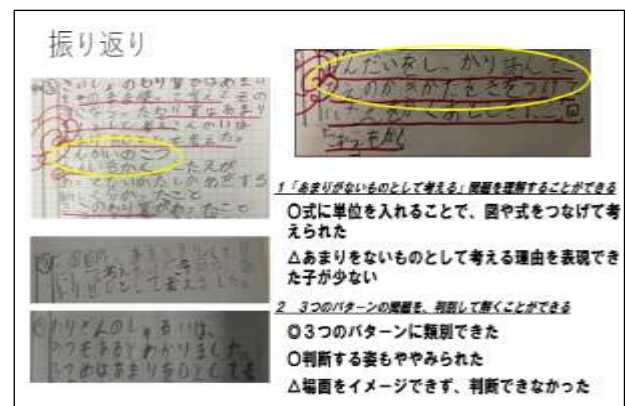
を表しているのかを何度も問い返し、式と図を関連付けることで、式と商、あまりの単位を丁寧に確認することができ、児童の戸惑いが減ったという回答がありました。

《柴田先生のご指導より》

・包含除の場合と等分除の場合では、確かめにおける乗法の適用に違いがあることを理解しなければならない。

《栗田先生のご指導より》

・「答え」という言葉が場面ごとに意味が変わってしまっており、児童は混乱をしていないか。一つ一つの言葉の意味を大切に指導しなければならない。



今年度は、新型コロナウイルスの影響で、当初の予定通り読書会を開催することができませんでした。今回は初めてオンラインでの読書会を開催することができました。参加してくださった先生方のご協力もあり、大きなトラブルもなく終わることができました。普段とは異なる状況下でしたが、参加された方の意思表示を挙手で示すなど、Zoom特有の方法で参加することができました。

本年度より読書会の講師になられた栗田万砂夫先生のご挨拶もあり、有意義な時間となりました。次年度も読書会へのご参加をお待ちしております。1年間ありがとうございました。